資料４－１

令和４年第２回「いわて復興ウォッチャー調査」結果について（報告）

【要旨】

復興推進プランの進行管理の一環として実施する「いわて復興ウォッチャー調査」（令和４年第２回（調査時期：令和４年７月））の結果を取りまとめましたのでお知らせします。

前回調査（調査時期：令和４年１月）との比較結果は、以下のとおりです。

- **「被災者の生活」**の**「回復した」、「やや回復した」の合計**は、**84.0%**と**2.1ポイント減**
- **「地域経済」**の**「回復した」、「やや回復した」の合計**は、**51.2%**と**0.3ポイント増**
- **「災害に強い安全なまちづくり」**の**「達成した」、「やや達成した」の合計**は、**79.7%**と**2.2ポイント増**

Ⅰ　調査目的等

目　　的：　東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施するもの。

調査対象：　沿岸12市町村に居住または就労している方、152名（原則毎回同じ方を対象）

調査時期：　令和４年７月

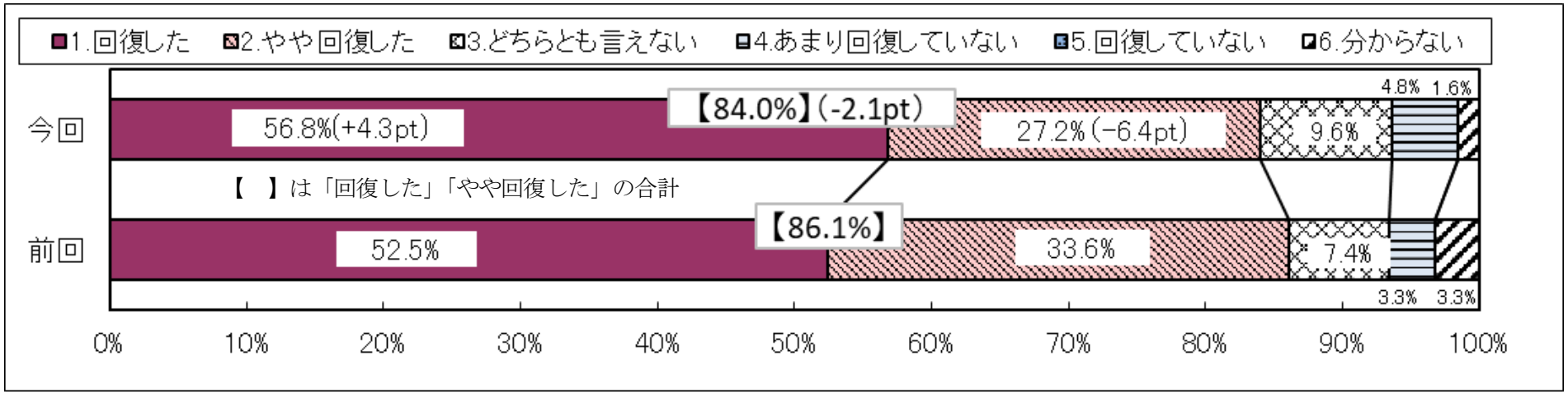
調査方法：　郵送法（回収率83.6%（127名/152名））　＜前回79.7%（122名/153名）令和４年１月調査＞

Ⅱ　調査結果の概要

次ページ以降（２～４ページ）のとおり

次ページへ続きます

1　被災者の生活の回復度に対する実感



復興道路等の全線開通や住宅の高台移転、災害公営住宅への移行など生活基盤の整備が完了し、住環境が整ったことを評価する一方で、被災跡地等の空き地の利活用、地域の高齢化や人口減少対策の重要性を指摘する声があった。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うコミュニティ活動への影響や、コロナ禍における原油価格・物価高騰等の生活への影響を懸念する声があった。

＜主なコメント＞

○　震災から 11 年経ち、街もでき、道路もでき、公園もでき、震災前よりきれいになり、住みよくなった。その意味で回復し、進んでいると思う。ここ数年は震災よりも、新型コロナウイルス感染症による影響が大きい。（回復した・進んでいる：60 歳以上，産業・経済・雇用関連，沿岸南部）

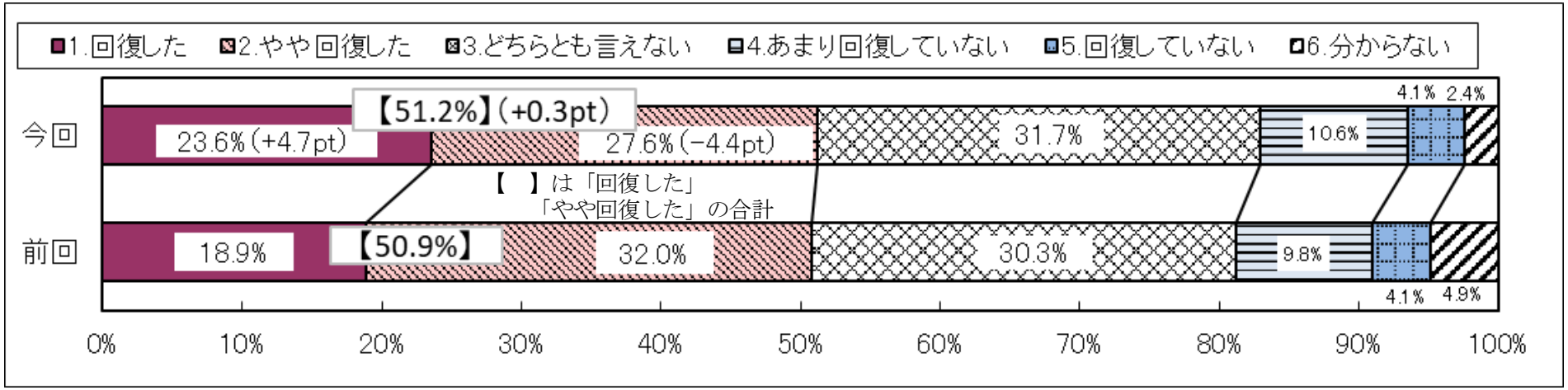
○　住居や町もだいぶ整備され、進んでいるように見える。勤務地に向かう道中、被災地域を通るが、公園やスーパー、以前あった商店等は再建している。ただ、まだ空き地も目立つように感じる。身近におられる被災者の方々の生活自体はだいぶ落ち着いてきたように見えるが、見えない部分（心の面）の回復については、分からない。（やや回復した・やや進んでいる：50 歳代，教育・福祉施設関連，沿岸南部）

○　震災後 11 年が経過し、地域の高齢化が進むと共に、新型コロナウイルス感染症やロシアのウクライナ侵攻の影響により、ガソリンも含め物価が高騰し、被災者に限らず、生活する上での大変さを感じている。（どちらとも言えない：60 歳以上，産業・経済・雇用関連，沿岸南部）

○　新型コロナウイルス感染症の影響で新しいコミュニティ形成が進んでいない。
（回復していない・進んでいない：40 歳代，教育・福祉施設関連，沿岸南部）

次ページへ続きます

２　地域経済の回復度に対する実感



新しい商業施設の建設や、震災以前にあった店舗の再建などから地域経済の回復が図られたとする声や、復興道路等の全線開通による物流や人的交流を評価する声がある一方で、復興事業の完了に伴う公共工事の減少や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う飲食業や観光業等での需要の落ち込み、水産業における不漁、原油価格・物価高騰など、厳しい地域経済の状況を指摘する声があった。

＜主なコメント＞

○　新しい商業施設の建設や、震災以前にあった店の再建など、「回復してきている」ように思う。農産物等の地産地消の促進も図られていると思う。水産業に関しては、具体的にどういう状況か見えないところもある。（やや回復した・やや進んだ：50 歳代，教育・福祉施設関連，沿岸南部）

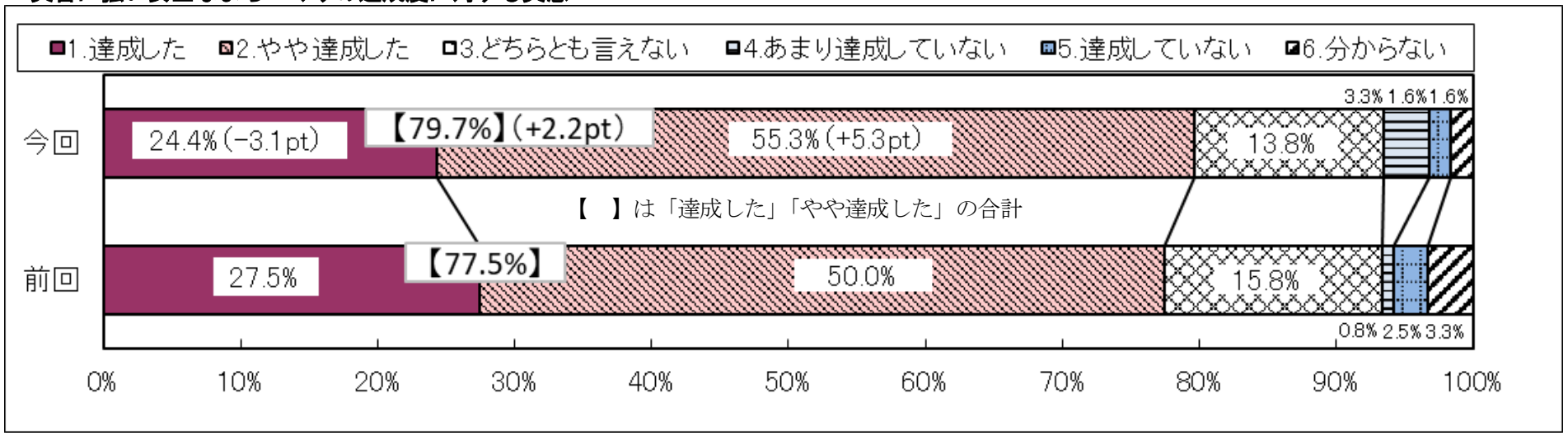
○　「回復してきている」と思うが、新型コロナウイルス感染症の影響が飲食店にあるのではと思う。「回復してきている」と思うのは、商業施設への人流や、三陸沿岸道路の車の流れが増えていると思うからだ。しかし、街中心部の人の流れは少ないと思う。
（やや回復した・やや進んだ：50 歳代，教育・福祉施設関連，沿岸南部）

○　主要産業である建設業は三陸沿岸道路の完成に加え、公共工事の減退や原油高等に伴うコスト増加により、収益環境は厳しい。依然コロナ禍の状況にあり、観光業・飲食業中心に大打撃を受けており、暫くは同様の状況が続くものと思われる。
（どちらとも言えない：40 歳代，産業・経済・雇用関連，沿岸北部）

○　工業製品の製造業などは好調であるが、水産業や建設業は不漁や工事量の減少などにより、不振が感じられる。
（どちらとも言えない：60 歳以上，産業・経済・雇用関連，沿岸南部）

次ページへ続きます

３　災害に強い安全なまちづくりの達成度に対する実感



防潮堤や復興道路などハード面が整備されたことや、自治体・教育現場における防災意識向上の取組を評価する声がある一方で、「日本海溝・千島海溝沿い巨大地震」の被害想定に合わせた新たな避難対策や、震災から 11 年以上が経過したことによる震災の風化防止の取組の必要性を指摘する声があった。

＜主なコメント＞

○　防潮堤の完成や、三陸沿岸道路の全線開通など、震災前より安全な町になっていると思う。今後、東日本大震災よりも大きな津波が来る事が予測される。新たな津波浸水想定地域の方々への、避難所、避難場所の周知が今後必要になると思う。
（達成した・進んでいる：40 歳代，地域団体・郵便局関連，沿岸南部）

○　震災を踏まえ、防潮堤などのハード面の整備のほか、防災意識を高めるような自治体・教育現場の取組などが継続して行われていると感じる。
（やや達成した・やや進んでいる：40 歳代，教育・福祉施設関連，沿岸北部）

○　インフラが整備され、ハードは完成した。ソフト面では、「震災の風化防止」につとめる活動が必要であると思う。「高田松原津波復興祈念公園」も全て完成したので、あのフィールドをもっと有効に活用できるように取り組んでいきたい。
（やや達成した・やや進んでいる：40 歳代，地域団体・郵便局関連，沿岸南部）

○　予定された防潮堤や水門などは、ほぼ完成しているが、今後想定される「日本海溝・千島海溝沿い巨大地震」の被害想定の公表で、東日本大震災津波を上回る浸水被害地域が示され、今までの災害・避難に対する考え方を大きく見直さなければならない。
（どちらとも言えない：60 歳以上，産業・経済・雇用関連，沿岸南部）

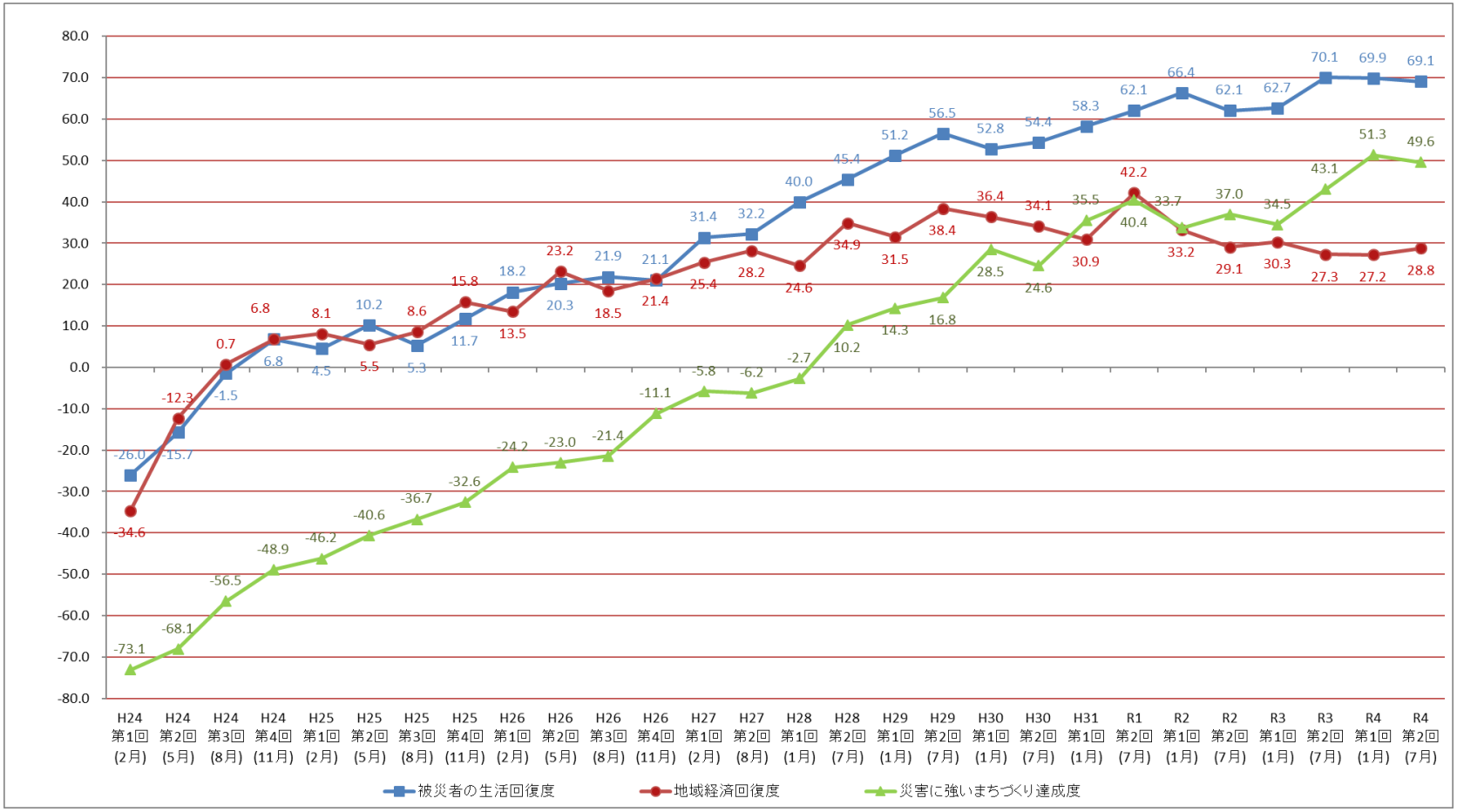
参　考

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数（ＤＩ）の推移

＜動向判断指数（ＤＩ）＞

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数（ＤＩ）について時系列にその推移を表したものである。

動向判断指数（ＤＩ）は、「回復した」の回答数がＡ、「やや回復した」の回答数がＢ、以下「どちらともいえない」がＣ、「あまり回復していない」がＤ、「回復していない」がＥのとき、次の式で算出する

動向判断指数（ＤＩ）＝｛（Ａ×２＋Ｂ）－（Ｄ＋Ｅ×２）｝÷２　÷（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ＋Ｅ）×１００

（注）上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる（他の選択肢についても同様）。